夕刊
磐城新聞
三月二日發行
[illegible]
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

創始後卅年の歴史を持つ郵便振替貯金

平郵便局

一

思ひは遠く三十年の昔に遡る、東海の一小國日本を世界的大國の水準にまで引上げる機緣となつた日露戰爭が、我國の大勝に歸して世は擧げて我が世の春をたゝへ戰後の經營に多事多端の秋、卽ち明治三十九年三月一日我國金融界の進展に一異彩を加へた郵便振替貯金の制度が實施せられたのである、顧みれば[illegible]も早くも愛に三十年を迎へ益々國家社會の爲めに活躍すべきときになつたのであるが、未だ眞の制度に一般に充分理解せられて居ない樣だから此の機會に振替貯金のあらましを記述することにする

振替貯金の起原

振替貯金制度の濫觴の地は墺地利であつて墺地利は一八八三年、卽ち明治十六年に郵便小切手及振替計算制度として之を實施し[illegible]の制度で且便利な制度が世に現はれや各國に於ての創心を持ち　佛蘭西に委員會を設けて利害得失を研究し獨逸は議會の論題に供して[illegible]世界

に於ける第二番目の創始の榮譽は遂に瑞西に依つて占められた。夫は明治三十九年一月であつた

我國に於ける發達狀況

我國に於ても夙に墺地利に於ける振替貯金制度の[illegible]と發達とに鑑み其の攻究を怠らなかつたが之を實施することが金融機關の普及を圖り[illegible]を簡便にして產業の發達を助長する爲[illegible]

九年實施した、夫は瑞西に遅るゝこと僅かに二ケ月のことであつた。當時日露の國交斷絶して互に兵火を交へ有史以來曾つてない國難に遭遇したけれども、外に在つては皇軍連戰連勝して克く交戰の目的を達し內に在つては擧國一致宣戰の趣旨を体して最終の勝利を完ふすることに努めた外產業の發達と國富の增進とを期する爲め平和的施設を怠らず、內外頗る多事を極むるの秋に於て斯る進步した金融機關たる振替貯金業務の礎を定むるに至つたのは特筆大書すべき價値がある

尊敬消息

中川小十郎氏（立命館大學總長）天田愚庵三十三回忌を、京都鹿王院で擧行した

季節の齒車

早崎夏衛

2

プロレ歌人は、かれらの實感を表現するためには、もはや何等の生彩もない、形骸的な舊短歌の樣式では滿足出來なくなつてきた。のみならず、やりきれなくなつてきたのである。しかるに、かれらが、かれらの現實感を如何に表現すべきかの研究に意を盡さず、[illegible]をたゞ人間の鼻ッさきへわがまゝにぶつゝけて足れりとするにたれりとするに至つたのは、彼らの多くが、わけてその指導者が、階級鬪爭の現實運動に加はり、かれらの短歌作品をも鬪爭目的の武器として使用するに至つたからであると見なければならない。故に、歌壇的存在はゆるされず、短詩へ解消する運びとなつたのであるが、彼らの作品があれほどの眞實性をもちながら、詩として、藝術として貧しい存在でしかありえなかつた理由は、その途からも解きうるだらう

い

短歌の社會的成立はその思想概念にあるのではなく、それは現代感にある。今日の短歌は、はてしなく現實感の表現でなければならない。

嚴密に云へばプロレ短歌革命より一歩手前に出發し、その少しく後になつて著しく發展した所謂新藝術派なるもの、更にアングルを變へて、いろんなイズムが名稱される流行となつたが、新種の流行は至極つまらな[illegible]

捉されてはならない。一體まだほんの青い分析好きの生きものは矢鱈にイズムを冠せたがるが、僕なんかはどんな光榮ある冠を頂戴しても一向ありがたがらないのみならず（花の香を指にふくめて嚙きためるドレスのない藥害のみなり）のやうな傾向に寫實派と云はれても更に否とは云はぬ積りだ。むろんこれは肯定するのではなくて、同時に對手にせぬ譯ではないが、一口に云へば面倒だから逆はな[illegible]

磐城歌壇推薦歌

新妻久滿男選

『逝ける吾子』　美崎一郎

○添寢せし夜は明けにけり石のごと冷たき頰と妻はなげくも

○新らしき帽子を被りお衣裳着て何處へ行くぞいとし我が子よ

○暫しとて子のなきがらを抱きみぬ再び抱かん汝にあらねば

○悲しみに堪へで海邊に出でゝ見ぬ嘆くか海よ我の心に

○悲しみはなぎさに寄する波なれやくづれかへせどまたうねり來る

詩　斷想

四倉　丘月

泣いてゐた
あの人の爲に
わけ知らず
泣いてやつたつけ
この松の木のもとで
共に遊んだ
幼な友よ――
永遠に歸らないところの
過去を
今日も亦
思ひ出してゐるよ

唁青沼平町長北堂

珠雲　小野務平

菽水承歡不遠游
斯兒斯母絶倫儔
嘗我默誦矣何耐
一夕奈望白玉樓

ゆめ

私市俊子

心の片すみで
たのしい夢をみる
希へないのぞみも
思へない喜びも
そつとうつして夢にみる
それだけで幸せな
たのしい花園
心の片すみで
私のゆめ
ひとりのゆめ

3月3日

△大阪天下茶屋の仇討（慶長一四）△井伊直弼櫻田門外に斃さる（萬延元）△杉浦重剛生る（安政二）△三陸に大海嘯襲ふ（昭和八）△ギリシヤ革命艦隊クリート島を占領（同一〇）

講談　黄金魔刄 (89)

高桑義生作　樋口悅也畫

感傷の曲（四）

どこで唄ふか、きれ〴〵の唄の聲、そうして冴えた三味線の音

さいせんの地歌の音じめも、はなし聲もやんで、霜の音さへきこへるかと思ふしいんとした眞夜中の底である。襖をへだてゝ相當遠いのであらうけれど、調子の高い冴えた聲はむせびながら夜の虛空を走つて來る。雛鶴の江戶節といつた、上方にはめづらしい新內流しがどこやら

の門で唄ふのだ

……春雨の、ねむればそよと起されて、みだれそめにし浦里が、どうした緣でかの人に、逢ふた初手から可愛さが、身にしみ〴〵と惚れぬいて、こらへ情なきなつかしさ、人目の關の夜着のうち……

寛之助は物に憑かれた樣子で、たちあがつた。雛鶴はおどろいて、やさしい瞳を丸くして

『何處へお出でなされます！』

『おゝ』

はッとわが身を振りかへつて、寛之助は足もとを見精めて

『外へ出て見ようと思ふ……』

『まあ……今時何でござります？』

『あれは新內といふものだな？』

『はい、新內の弱がらす……！』

『わたしが一度聞いたのもそれ、耳にのこるあの聲、あの節……もしや知人ではないかと思ふ』

『あなた樣があの江戶節の女子を』

『さうです。さいせん廓に入る道で、似たうしろ姿を見かけましたが、思ひがけない服裝、場所ゆゑ、じぶんの眼のせゐか、他人の空似と思うたが……』

雛鶴の眼はしだいに驚愕の色をふかめて、それにはかすかな妬嫉が動いた

『で、幸ひたしかめて見たいと思ふ。すぐ戾る』

『いゝや、いけませぬ』

と雛鶴は重い頭をなまめかしく振つて

『やりませぬ。尙さら出してはやりませぬ』

『何故？』

『何故でも』

『よいではないか。許してくれ』

『いゝわ』

『そのやうな事をいはずに！』

『この夜寒に、お風邪をめします。明日になされませ！』

『明日に？　それでは行つてしまふ。そのやうな無理をいはずに』

『あなた樣こそ御無理でござります』

『困つたな』

『この夜更に、門附の女子を見に出るお方が何處にござりませう』

『でも、知人ゆゑ』

『あなた樣の何でござります。あの門附は、美しい若い女子でござりますに』

『それは、わたしの尋ね人なら、姉にあたる』

『まあ、お姉さまに、おほゝゝゝ……』

『笑ひ事ではない。わしはどうでも見て來る』

寛之助はいくらか氣色ばんだ。が、雛鶴も眞劍である

『どうしてもお止めいたします。やりませぬ』

『後生だ、わづかの暇だ』

『嫌でございます。片時も嫌でございます。あなた樣のお言葉が眞實なら、なにも今に限つた事ではござりませぬ。わたくしきつとお逢はせいたします』

『逢はせる？』

『はい、是非にと仰られますなら、あの女子はこの頃毎夜この廓に來まする者のゆゑ、どのやうにもして――今時外にお出なされては怪しまれまする』

『ウム』

『それゆゑ、お坐りなされませ。お召物をお着替へあそばし、もうおやすみなされませ』

『さういふならばだが、でも、ひと目なりと見たいなあ！』

あきらめられぬ寛之助の顏

『おほゝゝ……それほどに仰しやるならば、外廊下まで、わたくしがお連れいたしませう。ひよつとして遠目に見られまする』

雛鶴はくわん之助の手をとつた

廣告

素人料理　天下一品マツイ
おでん　榮ちやん
平町新田町

前田醫院

吸入用酸素　純度99%
度量衡　モノサシ　マス　ハカリ
計量器　体温器　寒暖計
◎秤ノ取次・錘ノ修繕・糸ノ復換致シマス
關內藥局　電話四〇番

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

平町三丁目
友部株式店
電話一七七番

茶道　裏千家
華道　未生流　小原派
格花　盛花、瓶花
教授いたします……。
稽古日は　茶道…月六回　一、六日　華道…毎週　土曜日
◇出稽古も致します。
場所　平町字二丁目常陽銀行橫　地球堂書店內
裏千家　未生流　小原流
比佐宗弘

ほねつぎ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
電話一八一番
（小僧さん入用）

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院
電話九二五番
院長　醫學士　金森五郎
入院隨時

洋服大特賣
男女用學生冬服豐富に取揃
洋服は高島
注文並に既製品
高島屋洋服店
平町二丁目電話三八六番

難波醫院
內科　小兒科
入院應需　自炊の便あり
平町大町　電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士　難波睦

社員採用
固定給參拾圓外手當支給
二十才以上五十五才迄
希望者は履歷書持參本人來談
公債　社債券　現物賣買　擔保貸附
日本商事株式會社平支部
平町鍛冶町十八

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平町紺屋町　電話六八番

月曜論壇　妄りにする勿れ

文豪蘇峰翁は、宛然瞞天の錚鏘的に突如帝都の靜謐を破つた今回の事件に就き一昨夕刊の日々たよりに於ける「野人の語」の結文に――支那の詩人は曰く、獨使至尊憂社稷、諸君何以答昇平と。我等は實に這句を三復して我が當路の諸君に一番の振起を促す。當路とは閣僚のみではない特に陸軍の諸巨頭に對して最も然りとすると云つて居る。今回の問題に關し差當り語るべき自由を有たぬ我等は、之の文の當否をすら云爲するを避け度いと思ふが、此際翁と其の見を同じうするの士が蓋し滿天下に鮮くあるまいと丈けは云ひ得ると思ふ、而も事の性質上之れが論評は斷じて叨りにすべきで無いに拘らず地方に於ける一部の自稱識者中荒唐な道聽塗說に淺薄且つ無責任の主觀を加へ、喋々以て顧盼自ら雄とするが如き徒輩が未だ必ずしも絕無ならざるを聞するは、即今未曾有の縡事として銷魂の情に因はれつゝある人心を彌が上に惑亂せしむるものとして徹底的に之が輕忽の言動を抑制せねばならない、時節柄大に必すべきであると思ふ

適度な受驗準備

今年も愈々三月に入つて傷ましき年中行事たる可憐な年少子女の受驗準備に當局の嚴重な注意はあり乍らも、所謂鼓欲の五分間に於ける深刻味を加へ、教員と子女と父兄と三位一体の血みどろな苦闘か、陰慘正視すべからざる一幅の地獄圖繪として吾人の前に展開さるるが、一途に最後のゴール入りを期す熾烈な慾求から、往々子女の健康能力等に介意せず旋て悲しむべき結果を招徠した事例が少くないので、從來年々幾人かによつて幾度か繰り返された言ではあるが此際子女の受驗準備に就ては學校家庭間の遺憾なき連絡協調によつて、苟も子女をして法外の負擔に困します事の無い樣最も細心の注意を拂ふ事が肝腎であると思ふ

ご念入りな訛傳に 澁面の安島元代議士

迷惑な天津教事件の飛沫

寶物拜觀禍

茨城縣大津町を根據とする天津教の檢索に就ては地方からも二三の登場者を出した爲過般來一部に或る種の衝動を起し殊に最近では山田村の安島元代議士が昭和五年天津教が法人組織となつた際副總裁となり、昭和九年解散を命せられる迄名を列ねてゐた爲今回搜索上必要な人物として召喚されたなど傳へられたので地方人の關心が一段と深められ各方面からその成行を刮目されるに至つたが同氏は先年一度所謂寶物を見に行つた事がある以外、副總裁などになつた事などは全然無いばかりか同所とは何等の關係無く、當時什器を參觀した關係からホンの參考人として聽取されたに過ぎず、前記ご念入りの訛傳に少からず迷惑してゐると

郡下の四夫人 愛婦から表彰さる

けふ創立卅五年記念式

愛國婦人會創立滿卅五周年記念式は本二日午前十時から同會本縣支部において擧行したがこれには支部長伊藤知事夫人富子さんを始め副長の出石總務部長夫人しづ子さん、大須醫學博士夫人とき子さん外支部役員ならびに伊藤知事その他官民が列席し且本野會長から感謝狀傳達の四氏外支部の功勞者三十七名中郡下關係次の如し

一、支部評議員平分會長　菅沼勢以子

一、小名濱町分會幹事　志賀こと子

一、山田村分會長　安島とし子

一、支部評議員湯本町分會長　石川秀子

早く知らせる爲に電報を電話で送達

平局で各方面に賛否照會

既報―平局では現時の社會情勢特に交通機關の著しきスピード化等に鑑み自轉車または徒歩によつて電報を配達し折角線上に於て短時分に取扱はれた電報の配達を遲らせる事を遺憾とし著信後直ちに受信人に送達し得る方法として現在の電話加入者に宛てた電報は總て之を電話に依つて送達して時分の短縮を圖り度いと此程全加入者に對し意見を徴すべく照會を發した、因に該方法は官報、暗號電報、照校電報、親展電報、新聞電報、歐文電報を除くと

消防組頭會

平署管內消防組頭會に九日午前十

海軍志願兵檢查 平町から六名合格

來る四月頃採否決る

石城郡下の今年度海軍志願兵檢查は二十九日から三日間平第三小學校で横鎭岡野中佐により行はれた、受驗者二百三十餘名、平町の檢查は二十九日行つたが受驗者十六名中左記六名合格、四月下旬頃採否が決定される

新川町吉田政雄　千葉一　南町長谷川喜久　才槌小路塚本慶治　仲間町鈴木健一　古鍛冶町先崎清一

平に聯合農業倉庫

農産物販賣統制に 目下縣當局で立案中

郡下の農業倉庫も産組の擴充と併行して漸次設立され最近でも高久、夏井の兩村に新設を見て今後は聯合農業倉庫と木炭倉庫の設立を急務とするに至つた、聯合農業倉庫は十一年度に縣下二ケ所に設立をみるに至る豫定であり、その候補地としては郡山、平の二ケ所があげられてをり又木炭倉庫も既報の如く縣下二十ケ所に建設の準備が進められ農林省に對しても一萬圓の補助金交付申請を提出してるまでに至つてゐるのでいよ／＼農産物販賣統制委員會の活躍期に入つたものといへる

聯合青年團第三方部會

郡聯合青年團第三方部會の春季總集會は……時から平署會議室に開き春季聯合檢閲並に火防上の打合せを行ふ

詩歌吟詠と劍舞 昨日小川小學校で

小川小學校では昨一日午後一時より日本精神作興詩歌吟詠並劍舞大會を開き詩歌吟詠の指導及び講演、兒童の吟詠劍舞等あり盛會だつた

來る八日午前九時から平町聚樂館に開かれ豫、決算その他各種事項の打合あるが愛國婦人會專任講師杉本春喜氏の講演あると

濱三郡將棋大會 昨日盛況裡に終る

大塚氏一等入賞

平將棋互樂會の第三回春季濱三郡將棋大會は昨一日午前九時から平町五丁目吉田屋樓上で開催、出席多數盛會で
1大塚千代吉（平）2樋口小彌太（同）3志賀辰次郎（神谷）4齊藤一馬（平）5村田正雄（小川）以下が入賞した、なほ同會幹部は地方棋界の狀勢に就いて左の如く語つた
地方棋界は有段者なきため棋力向上が思ふやうでなく從つて不振を續けてゐる、古參者よりも有望な初心者の努力が望ましいが結局敗れるため將棋會等開いても出席渉いのは殘念だ、地方棋界よ何處へ行くを叫びたくなる『將ギの宮下』出でよ…之が吾々の念願だ、云々

凶作防止 耕種改良

縣では十一年度において凶作防止耕種改良實施指導地二百三十八ヶ所を設置し縣下への指導は勿論特に地方的に必要とみとめられる改善事項に重點を置き設計耕作を行はせることになつたが各部落それ／＼に地方的な耕種設計書について關係地方擔任技術員を郡山市所在農事試驗場に招集打合會を行ふことゝなつたが、本郡技術者は來る四月二日出張し種々打合せることとなつた、尚郡下の實地指導地は十ヶ所であると

銀幕の夢ははかなし

逃走藝妓『千代丸』

郡山でストツプ

女優になりたいばつかりに去月二十三日朝髪結ひに行くと稱して突然行方を晦ました湯本町三函五一藝妓置屋壽非大平長次方抱藝妓千代丸事新潟縣東蒲原郡津川村生れ長谷川マス（一八）は最初上京したのではないかと思はれたが意外にも郡山市內に潛伏中を同署員に捕はれた旨平署に通知あつた

神谷農試修得證授與式

神谷農試分場の特別傳習會修得證授與式は來る八日午後から郡山本場江上場長が臨席して行ふ

産業實務青年協議會

産業實務青年協議會郡下の分は明三日午前九時から小名濱實業學校で開き、縣から諸橋學務部其他臨席、郡下の實業教育振興會地方幹部、男女青年團長等多數出席監督を豫想されてゐる、當日は地方産業青年の体驗研究發表及び青年學校經營其他の協議あるが、平青年校よりの体驗發表は圓谷定一君である

春宵の錯覺

煙突附近の火を火事と早合點

赤井で飛んだ人騒がせ

昨夜七時頃、赤井驛前日本窯業株式會社の煙突附近が急に眞赤になつたので附近民がそれ火事だと直に平署に急報應援を求めて來たのでポンプ二台が威勢よく急行したが、行きつかないうちに消えてしまつたと云ふので一同『ナーンダ』同署で調べた結果火事ではなく作業中火ぼえか煙突附近に燃え上つたものと判明

豫算町會けふ續行

矢繼早の質問に町長答辯に努む

委員任命審議開始

四十九萬九千三百圓の尨大な十一度新豫算を審議する町會は今二日午前十一時續行直に質疑應答に入つた（吉田寅）公會堂建設並に小學校敷地買收費に當てた町債十萬圓不許可の場合町の方針及財産番拂代繰越金、水道取水費等につき先づ質問のトツプを切つたのに對し（町長）この起債は多少の難色あるだらうが縣當局とも協力して努力するとの答辯あり、次に移つた（根本品）鎌田遊廓貸地値下調查、小學校並に平商授業料値上先進地對比、公會堂寄附金（川崎）南町墨道路補償料計上（馬目雅）水道使用料、給水增加見込み高の增加、害虫驅防費、町費補助の減額妥當（根本品）區長出席日數町村吏員の停年制決定、火防組合の補助の矢繼早の質問の矢面にたつて菅沼町長から夫々答辯あり正午一時休議の上更に質問が續けられたが豫、決算委員を議長指命で任命、明三日から二、三日愼重檢討した上六日頃本會議を開き修正案を可決されるものと見られてゐる

豫算決算 委員任命さる

前記豫算町會は午後一時迄質疑應答が續けられた後議長指命で豫、決算委員を左の如く決定明三日から委員會が開かれる

（豫算）小野　荻原　川崎　關內　小松　坂本　吉村　鈴木　根本品　多田井　猪狩　吉田金　佐藤幸　野崎　吉田五

（決算）松崎　會川　花澤　佐々木　堀　新井　井上　酒井　高橋　馬目雅　馬目武　吉田寅　荒川　綠川

兇行個所の實地檢證

內郷の傷害致死で 中島裁判長等出張

當時內郷村宮字代六九居住田村郡大越村生れ日雇稼前科七犯吉川幸太郎（四九）が泥醉の兇器を持つた男を退散せしめんとして力が剩り相手を撲殺して了つた傷害致死事件は去月十五日平支部の公判に於て辯護士より申請した疑問研究の餘地ある兇行個所の檢證のため來る七日中島裁判長以下出張することになつた

娘を喰ふ親爺

次女吃驚逃げ廻る

昨夜七時頃、平署にホロ醉機嫌になつた勞働者風の五十男が出頭『娘がどうしても會はぬから何とか取り計つて下さい』と願ひ出た、不審に思つた署員が事情をきくと、右は內郷村大字宮元炭礦坑夫菅野吉（四七）で同人の親にも會はぬと頑張る二女マサ子（一九）の話では元來呑んだくれな吉はさきに長女ヤエ（二三）を南町の料理屋に賣りとばして仕事もせず毎日呑んでばかり居り、今度は田町の某家に女中奉公をしてゐるマサ子を賣り飛ばさん

平署小異動

平署で今二日左の如く異動あつた

新	舊	
刑事	內勤	室井誠吾
衛生	營業	本田敬治
營業	內勤	遠藤正彌
內勤	外勤	柴田寬容

高尾夫人長逝

平機關庫主任高尾鱗之助氏夫人タカ子さんは昨今流行の惡性感冒に罹り急性肺炎に變じ、先月下旬直ちに高久病院に入院專ら療養につとめたが何分動脈瘤、狹心症にて最近種々治療中今度の罹病とて肺炎症狀輕快せるに拘はらず、急に心臟衰弱を來し今曉二時突然痲痺を起して逝去されたのは溫厚なる性格者として尙更惜まれて居る、行年四十七才

學校荒しに即決三年

住居不定無職田村郡瀨川村生れ窃盜前科五犯箭內豊吉（四八）が去る元旦未明內郷村高坂小學校に侵入、窃盜を働いた事件は今二日午前十時から平區で小林判事係り淸田檢事關與公判開廷、求刑通り懲役三年を即決言渡された

鮫川工事調查

鮫川疏水工事會計並に未成工事調查のため縣土木課阿部主事國分技手は今明日來郡調查

鞍替の途中酌婦ドロン

抱主平署に搜索願

內郷村大字綴料理業鈴木留四郎は二十九日茨城縣水戶市宇谷中料理店小林うめの方の酌婦千葉縣館山北條町渡邊けい（二三）を前借三百八十圓で抱へ連れ歸る途中水戶驛で逃走されたので一日平署に搜索方を願ひ出た

負債整理指導

縣負債事業協會では來月十六日平町に町村負債整理會組織指導研究の座談會を開く

。。。。宍戸家寄附

平町長橋町性源寺住職宍戸正勝氏は亡父の遺志により金二十圓を助成會に寄附した

天氣豫報

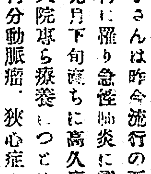
小名濱測候所觀測

今晩も明日も北西の風晴時々曇

三日（小名濱測候所調査）

日出　六、〇五　月出前　〇、五六
日沒　五、三四　月沒前　二、五〇
滿潮前　一〇、五〇　干潮前　七、四〇

舊二月十日　火曜　甲申　大安　破　翼宿　新二月三日



諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神…

▲一白 希望計畫は崩壞の憂目を見るに至るべき日▲二黒 萬事手順好く進む金談緣談皆諧ひて吉▲三碧 平順に開發を來たすけれど不誠實は失敗▲四綠 一意定業に力を注げば富貴榮達を來たす日▲五黄 左程の苦勞をせず目的を遂する日病難注意▲六白 邪路に迷ひ入りて發達を妨げらる分を守れ▲七赤 進退共に苦勞あるべし堅く本業を守り安全▲八白 一身同体となりて家業を勵めば利益大なり▲九紫 事業の根抵に動搖の來る日愼重熟慮を要す

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物金物問屋 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座 東京一〇九五六番
確實敏捷は（マーク）の生命なり

蓮淨院釋尼唯教大姉葬送の際は御多忙中の處態々御會葬被成下且つ御鄭重なる御香奠を賜り御厚志の段厚く御禮申上候一々拜趨御禮可申述筈の處乍略儀以紙上御厚禮申上度如斯御座候　敬具

昭和十一年三月二日
平町田町　萩原申八
外親戚一同

謹啓錦純院儀葬送の際は御多忙中にも拘はらず遠路御會葬被下且又御鄭重なる御香奠を賜はり御芳志の段奉深謝候拜趨御禮可申上の處失禮ながら紙上を以て御禮申上候　敬具

昭和十一年三月一日
嗣子　酒井猶次
外親戚一同